

## 「出会い」

滋賀県 板谷崇央

「私のかわいい天使。生まれてきてくれてありがとう。」

母の本棚に大切にしまってあった日記帳に記されていた一文である。

一九九三年八月二十七日、僕はこの日、初めての出会いをした。それは、僕を産んでくれた母との出会いである。もちろん僕の記憶には全く残っていない出会いではあるが、僕にとっては一生で一番大切な出会いである。

しかし、僕がこの出会いを果たすために、いろいろと母に負担をかけたらしい。切迫流産の危機、二ヶ月ものつわりなど、母にたいそう苦しい思いをさせたようだ。だが母の文面には、「しんどい」「苦しい」などといった言葉は一言も書かれていなかった。それどころか僕との出会いを楽しみ、喜んでいる様子がしみじみと伝わってくる文章ばかりであった。

妊娠五ヶ月で胎動を感じた時母は、

「あ！ 動いた動いた私の天使。もっともっと元気に動いていいのよ。」

「おなかを破って出てきそうなくらい痛いけれど、このかわいい足。」

八ヶ月頃、僕があまりにもあばれすぎて逆子になり、母は体操をしたりと苦労は絶えなかったようだ。そして、きわめつけは出産の時、僕はおなかの中で、へその緒を巻きつけていたのだ。通常ならとくに母との出会いを果たしていたのに、僕は母のおなかからなかなか出て来られなかった。母は二日間も陣痛に耐え、僕との出会いの瞬間を楽しみに頑張ってくれた。

命がけで、僕を出産してくれた母の日記を読んでいると、体中がじーんと熱くなり、そして僕という人間は、この瞬間から全てが始まったんだなあと思った。

僕は今十四歳。最近同世代の人々の自殺のニュースをよく耳にする。そんな時とても悲しい気持ちになる。すべての母親が、自分の子供を命がけで出産したはずだ。それなのに自らの手で別れに変えてしまうなんて、絶対にしてはいけないことだ。

また、殺人やテロで幸せな人々を強制的別れに変えてしまうなど、人間のすることではない。これこそ許すことはできない。

世界中の人々が、母の愛でこの地球上に産み出されて、多くの出会いを経験しながら成長し生きている。僕はこれから、たくさんの心が熱くなる出会いを経験するだろう。その出会いを大切に生きていこうと思う。